



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第 239 号 2023/ 9

宇都宮ライトレール開業

構想 30 年 75 年ぶり新設！

■8月26日、日本国内では75年ぶりの路面電車軌道新設となる、宇都宮ライトレールが開業した。1978年以来世界で211都市でライトレール(LRT)が開業したが、日本では富山について2例目。ホンダの自動車工場のある芳賀町と宇都宮駅東口を結ぶ約14.6km。併用区間9.4km、鬼怒川橋梁等の専用区間5.1km。停留場19で、トランジットセンターの整備、バス路線の再編、コミバス・デマンド、ICカードの導入も実施。



開業当日の駅前は大混雑

■低床式車両(LRV)17編成(3 連接、全長 30mは、定員 160 人の新潟トランス製で、岡山のMOMOなどと同タイプ。公設型上下分離方式で、上は宇都宮ライトレール(株)が担い、下の軌道整備は宇都宮市、芳賀町が国県の支援も受けて約684億円を投じた。



■構想当初はモノレール・新交通システムも検討されたが、最低 1400 億円を越える投資が必要で、ライトレールなら250億円程度と想定された。RACDA は 2002 年から構想に協力、この時点で堺市で政治問題化し構想が頓挫した事から、「道路事業であるライトレールは、道路交通を疎外しない為に、実際の工事費用が膨らむ場合がある」と認識した。道路交通に影響が出ない設計変更等で 2016 時点では 458 億円に膨らんだ。その後鬼怒川架橋が地盤問題、用地買収難航、さらにコロナ



ホンダ工場駐車場前の終点

による工事遅れなど 2 度にわたる開業延期があり、当初の 1.5 倍となる 684 億円と膨らんだ。構想立案

NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail: info@racda-okayama.org

URL: http://www.racda-okayama.org

RACDA

検索



の福田昭夫知事は「これだけの時間と金をかけて造るべきものだったのか、評価の目は厳しいだろう」（毎日新聞 2023-0818）と言う。ライトレールは、バイパス工事などの道路工事に比べて、むしろ用地買収費用が格段に少ないにもかかわらず、渋滞改善効果は高いはずだが、5回の市長選では常に大きな争点になった。先進国としても珍しい、過度に自動車に依存した、日本の地方都市の交通問題を浮き彫りにしたが、自動車工場に向けた路線であったことは、一種のアイロニーでもある。

■乗客は平日 16318 人、休日 5648 人を見込み、鬼怒川を渡る渋滞緩和も大きな目標。6-23 時台までピーク6分間隔、昼間10分間隔で運行、快速運転も行い、37-44分で全線走破。ホンダは送迎バスを廃止して渋滞対策に協力する。巨大な駐車場よりも近くなる社員もいるはず。料金は対キロ制で 150 円~400 円。ICカードでの乗降は欧米並みの信用乗車を導入し、全屏から乗降する。開業 4 年目には、年間 9.7 億円の収入、8.2 億円の支出で 1.5 億円の黒字を見込み、開業経費を 9 年で償還する予定。

■2002 年初めて宇都宮市の LRT 総決起大会にパネラーとして参加したとき、宇都宮駅東口には店も何も無く、広大な敷地に工場の送迎バスが大量に発着していた。我々は 2006 年と 2014 年に「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会」を宇都宮で開催して構想を支援。当初から駅西口延伸と東口再開発、将来はレール幅の同じJRや東武鉄道との連携を薦めた。今や宇都宮駅東側では大規模な再開発が進み、街の風景が変わった。駅西への延伸計画も具体化している。ライトレール沿線の地価は大きく上がり、開業を控えて、不動産問合せは沿線で前年対比 154%、特に新築物件問合せは 587.5%と急増。賃貸価格も 2020 年以来宇都宮市全体で 109%、沿線で 114%となった。

■開業式典には、運転手養成に協力した岡電など全国の軌道事業者も参加。駅前通りでは世界の事例に倣って電車を囲んだパレードが行なわれ、大変な人出となった。午後三時からの営業開始では、関東圏らしく多くの鉄道ファンが初乗りに訪れ、それと同数ぐらいの地元のお客さんが乗り込んだ。実際に二日間観察してみると、子供と手を繋いだ家族連れが多く見られ、電車の乗り方を教えていた。シネマのある沿線のスーパーには、結構な数のお客が電車でやって来た。新聞社のインタビューに、学生二人連れは「バスはすぐ20分遅れる。LRT に期待している」と答えていた。関東圏でのライトレール開業は、大きな宣伝効果があり、工業団地の雇用にも大きく貢献するだろう。

■ライトレール整備は、道路渋滞を緩和し、まちづくりに寄与し、道路整備同様の社会資本整備総合交付金を活用した事業だ。開業により宇都宮市の固定資産税の伸びは、毎年数十億円の自主財源をもたらし、これが福祉・文化・教育などの資金になっていくはずである。都市経営としてのライトレールの評価が必要だ。



写真 小椋将史



家族連れが目立ち、無降デーのような効果が顕著